

2025年度卒業生 進路状況 全日制

進路概況

進路指導係

上田千曲高校は東信地域で百年以上の歴史を持ち、6学科6クラス、全体で18クラス約720名が在籍する専門高校です。令和7年度は進学、就職ともに追い風という好条件ではありませんでしたが、3年生（卒業生）は自分の進路について真剣に考え、選択し、取り組み、努力した結果として98%の生徒が希望した進路へ進むことができました。

就職については、地元企業を中心に堅調な求人をいただき、91名の生徒が就職（卒業生全体の41%）となりました。一方、進学は大学が48名、短大が20名、文部科学省を除く省庁大学校等12名、専門学校が47名の合計127名でした。

◎就職状況 ～専門高校としての強さを発揮～◎

昨年度の就職スケジュールは例年と同様（求人票公開7/1、就職試験解禁日9/16）でした。求人状況は一昨年度に引き続き好調傾向が続き、地元企業をはじめ県内外から多くの求人があり、公務員2名を含む91名の生徒が就職内定を頂きました。本校は専門高校生としての知識や技能、伝統的に築き上げてきた地元企業とのつながりなど、就職に有利な条件を持っており、大手・中堅の製造業・建設業を中心に順調に内定を決めることができます。ここ数年、少子化の影響などで企業は人手不足といわれています。実際に多くの企業から本校生徒を求めていると聞いています。長年の伝統にも支えられ、就職に関しては他校に比べて大変恵まれた状況が継続しています。

◎進学状況 ～専門性を高めるための学校・学科選択～◎

本校では各科とも多くの大学・短大・専門学校等の指定校をいただいております。指定校を含む学校推薦型選抜を利用しての合格が進学者の64%を占めています。最近では様々な選抜制度を利用して進学する生徒も増えていきます。昨年度の卒業生の特徴は下記の通りです。

- ・四年制大学進学者の多くは学校推薦型選抜（指定校）による合格が多い状況ですが、総合型選抜や公募の学校推薦型選抜で進学を決めた生徒も多数います。また公立大学へ9名の進学（長野大学6名、諏訪東京理科大学3名）を果たすことができました。
- ・短大進学者は一昨年度と同様に各科とも専門科の特性を活かした学校学科選択をしています。
- ・文部科学省を除く省庁大学校、専門各種学校進学は本校生徒の一番多い進学先となります。上田市内の長野県工科短期大学校には10名が進学し、本校工業科の専門学習の延長として根強い人気があります。また看護医療系専門学校を志す生徒も多く、看護系へは7名の生徒が合格しました。大学や短大同様に各専門科の特性を活かした学校・学科選択をする生徒が多いのが特徴です。

学科別動向

メカニカル工学科・・・就職・進学の割合は28%：72%でした。就職先は地元の製造業が中心で、求人も非常に多く、就職活動に恵まれています。進学は機械系、制御系を中心とした学科へ進んでいます。

電気科・・・就職・進学の割合は67%：32%で就職者が多い傾向でした。就職先は電力系や電気工事関係に加え、地元の製造業にも多数就きました。進学では電気、情報系を中心とした学科へ進んでいます。

建築科・・・就職・進学の割合は77%：23%で就職者が多い傾向でした。就職先は専門である建築関係を選ぶ生徒が多く、地元建設会社を中心に大手ゼネコンへの就職者もいます。進学については、建築系を中心とした学科へ進んでいます。

商業科・・・就職・進学の割合は39%：58%で進学が多い傾向でした。就職先では金融、企業の事務や総務、製品管理等に就きました。進学先はビジネス系や商業系の大学・短大が多いですが、専門学校は医療系、美容系など他分野への進学も増えてきています。

生活福祉科・・・就職・進学の割合は11%：86%で進学が多い傾向でした。就職先は福祉・介護と食品製造です。進学は福祉、看護、医療関係や幼児教育関係など多様な分野に進んでいます。

食物栄養科・・・就職・進学の割合は23%：69%で進学が多い傾向でした。就職先は調理や食品製造、製菓系に就きました。主な進学先は栄養健康系、調理系をはじめ様々な分野の学科へ進んでいます。